



(京都東南部)

平等院は、永承七年（一〇五二）藤原頼通により宇治別業が喜捨されて建立された寺院である。現存する阿弥陀堂（鳳凰堂）は、翌天喜元年（一〇五三）に落慶供養が行なわれている。阿弥陀堂を取り巻く池を中心とした庭園は、浄土庭園の範として一九二二年に国の史蹟名勝に指定されている。しかし、

京都・平等院庭園

1 所在地 京都府宇治市宇治蓮華

2 調査期間 第七次調査 一九九六年（平8）十一月～一九九七年三月

3 発掘機関 宗教法人平等院・宇治市教育委員会

4 調査担当者 杉本 宏・吹田直子

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 平安時代中期～現代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

平等院は、永承七年（一〇五二）藤原頼通により宇治別業が喜捨

長い歴史の中で度重なる改修を受けているため、必ずしも創建時の姿を留めているわけではなかった。そこで現護岸の修理を契機として、平等院庭園保存整備事業が計画され、一九九〇年より発掘調査を重ねている。

今回紹介する木簡が出土した第七次調査では、鳳凰堂背面南側にあたる尾廊から南翼廊前端までの地区の調査を行なった。平安時代の遺構は良好に遺存しており、創建当時は堂の大きさほどの穏やかな中島、壇正積基壇上に聳え立つ翼廊という、現在とは全く異なる姿を呈していたことが判明した。また、南翼廊から南岸の池底にかけて複数の柱穴を検出したが、これらは『洞院撰政記』の記述から反橋橋脚跡と理解できた。橋脚は三回以上の架け替えが行なわれている。

木簡は、この橋脚の柱穴のうち、二回目ないし三回目の架け替え期の柱穴二カ所から出土した。木簡は柱を抜き取った後に流入した砂質土中に包含されており、池底面より約一〇cm下からまとまって出土した。柱穴底からの出土はない。共存遺物には土師器皿片一点がある。小片のため時期は確定できないが、おおそ中世に属し、江戸時代に降るものではない。従って、木簡の年代についても、出土地点が現代も機能している池中であることや、木簡自体が流入物であることから、時期決定の積極的な根拠は欠くが、おおむね中世のものと考えられる。

木簡は、同一規格の多量の薄板に経文を記した柿経の一部である。点数は、ここで紹介する墨痕のあるものを含めて数十点にのぼるが、ほとんどが一五mm×五mm程度の小片である。

8 木簡の釈文・内容

- (1) ×復心観大勢至^{〔苦カ〕}× (71)×(21)×0.5 081

- (2) ×^{〔復カ〕}向相従共生更相報復無上有絶已殃 (190)×26×0.5 081

- (3) ×^{〔之カ〕}道莫能知者世間人民父子兄弟夫 (196)×26×0.5 081

- (4) □道□ (32)×(14)×0.5 081

- (5) □門 (26)×(7)×0.5 081

(1)は「観無量寿経」勢至観の一節である。上下端及び左側面を折損しているが、原形は短冊状で(2)(3)と同形状と考えられる。厚さ〇・五mmと非常に薄い。墨痕は比較的明瞭に残っていて、片面に六



(1)



(2)



(3)



(1)



(2)



(3)

文字が判読できる。七文字目は経文から、「菩」と推測できる。

(2)(3)は『無量寿経』の一節である。(2)は上下端を折損し、左右両側面は下部近くの四二mm分が遺存しているが、側面に特に加工はみられない。墨痕は比較的明瞭で、文字は片面のみ一六文字が観察できる。(3)は上下端を折損しているが、短冊状の形態をよく留めており、今回出土した柿経の中では最も遺存状態が良い。これにも側面の加工はみられない。墨痕もよく観察でき、文字は片面のみ一五文字が観察できる。文字数を揃えてあった可能性を考えると、少なくとももう一文字は記されていたと思われる。

(1) (3)の他に墨書のある小片が一〇点あり、いずれもその形状や文字の記されている位置などから、(1) (3)と一連の柿経の断片であると考えられる。そのうち文字の判読できるのは、(4)(5)の二点のみである。(4)は上下端と右側面を折損している。墨痕は比較的明瞭に残っていて三文字観察できるが、中央の一文字のみ判読できた。(5)は上下左右とも折損している。墨痕は比較的明瞭で、二文字が観察できる。

なお、経文の出典及びその内容については、平等院の神居文彰住職・西村恵祥氏のご教示をいただいた。

(吹田直子)

木簡研究 第一九号

巻頭言

一九九六年出土の木簡

町田 章

概要 平城宮跡 平城京跡 藤原宮跡 恭仁宮跡 長岡京跡 平安京跡
左京八条三坊十四町(八条院町) 末寮跡群 大坂城跡 広島藩大坂蔵屋敷跡 樟葉野田西遺跡 三条九ノ坪遺跡 大物遺跡 深田遺跡 安倉南遺跡 明石城跡坤櫓 明石城武家屋敷跡 袴狭遺跡 印場城跡 角江遺跡 御殿・二之宮遺跡 川合遺跡志保田地区 北条小町邸跡 伊興遺跡 丸の内三丁目遺跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡 牛込御門外橋詰 尾張藩上屋敷跡遺跡 青山学院構内遺跡 岡部条里遺跡 上山神社遺跡 湯ノ部遺跡 観音寺城下町遺跡 小谷城跡 高山城三之丸堀跡 松本城三の丸跡土居尻 松本城下町跡伊勢町 前橋城遺跡 大猿田遺跡 根岸遺跡 泉平館跡 山王遺跡 舟場遺跡 無量光院跡 志羅山遺跡 後田遺跡 亀ヶ崎城跡 宮ノ下遺跡 上高田遺跡 大桶遺跡 杉田柵跡 長田南遺跡 金石本町遺跡 田尻遺跡 大坪遺跡 舞臺遺跡 馬寄遺跡 下町・坊城遺跡 新発田城跡 目久美遺跡 天神遺跡 三田谷I遺跡 鴻の巣東遺跡 吉川元春館跡 長登銅山跡 飛田坂本遺跡 博多遺跡群 香椎B遺跡 鞠智城跡 前田遺跡 那覇港周辺遺跡群旧東村地区
一九七七年以前出土の木簡(一九)

岡山・美作国府跡

韓国出土の木簡について

史料紹介 琉球の木簡二題

書評 山里純一著『沖繩の魔除けとまじない―フーフダ(符札)の研究―』

書評 東野治之著『長屋王家木簡の研究』

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

李 成市
山里 純一
高島 英之
鶴見 泰寿